

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	伊万里市立大川内小学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	・職員が一丸となって、一つ一つの問題や課題に向き合ってきたことで、全般的に高い評価を得ることができた。また、地域や家庭や協力があつたこともこの高い評価を得るにあたっての要因となった。今後さらにこのことを持続させていけるように地域や家庭と連携しながら精進していかなければならない。 ・いじめに関する問題を解消していくためには、職員が児童の言動を見る目を高め、児童との関わりを深めていく必要がある。日頃から組織的に取り組み、いじめの未然防止に努めるとともに、児童の様子をつぶさに観察して早期発見・早期解決につなげていけるようにしていかなければならない。 ・学力の向上に向けては、全国及び佐賀県学力学習状況調査並びにCRT調査の結果の分析をもとに、また校内研修を軸としてよりよい指導法のさらなる改善に努めなければならない。
---------------	--

2 学校教育目標	「笑顔で元気な大川内っ子」の育成 — あいさつ 返事 意思表示 —
----------	-----------------------------------

3 本年度の重点目標	・地域の協力を受けながら教育活動を展開し、地域のよさを誇りに思い、地域の「人・もの・こと」と連携し、成長していくことに喜びを感じる児童を育成する。 ・常にすべての児童が、基礎的・基本的な知識及び技能を習得することを意識した学習活動を展開する。また、校内研究を軸に、様々な問題に対してしっかりと見直しをもって粘り強く取り組み、豊かな表現力を生かしながら自分の思いや考えを進んで伝える児童の育成を目指す。 ・家庭や地域、専門機関との連携を図りながら児童の学習面や生活面の様子をしっかりと見取っていく。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価			学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。	・学期末にマイプランについて振り返る時間を設定し、意識化を図る。	・全職員(100%)が、マイプランの成果指標を「達成できている」、「おおむね達成できている」と自己申告している。	A	・2月のアンケートで92%の職員が、マイプランの成果指標を「達成できている」、「おおむね達成できている」と回答した。	B	・日頃の様子は見えにくい面もあるが、先生方は子どもたちのために熱心に取り組まれていると思う。	永尾(学力CD) 小宮(研究主任)		
	○基礎的・基本的な知識及び技能を習得するとともに、自分の思いや考えを進んで伝えることのできる力の育成	○国及び県の学習状況調査やCRT検査において、全国や県の平均値を上回ることを目指す。	・日々の授業において、西部型授業の実践を行い、児童の確かな学力の向上を目指す。	A	・全職員(100%)が、西部型授業を「実践している」、「おおむね実践している」と自己申告している。 ・6年生の全国学力学習状況調査では、国語・算数ともに全国及び県の平均値を上回ることができた。	B	・2月のアンケートで92%の職員が西部型授業を「実践している」、「おおむね実践している」と回答した。 ・4、5、6年生のうち、5、6年生が12月の県学習状況調査で国語、算数ともに県の平均値を上回った。1、2、3年生を対象に行った1月のCRT検査では、1、2年生が国語、算数ともに全国の平均値を上回った。3、4年生の学力向上に向けた指導法の在り方を見直し、改善する必要がある。	B	・コロナ禍ということもあり、子どもたちの日頃の学習の様子は見えにくい。	永尾(学力CD) 小宮(研究主任)	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○90%以上の児童が、交流をしているときや、交流後に書く感想で、誰もが交流を持った相手に対し、思いやりのある気持ちや相手を敬う気持ちなどを表現することができる。	・縦割り活動を行ったり、特別支援学校との交流を行ったりしながら相手を思いやる気持ちや敬う気持ちを育てる。	B	・朝の時間の縦割り活動「なかよしタイム」を8回実施し、誰もが楽しく活動した。 ・各学年ごとに相手を思いやる気持ちを込めて手紙を書いたり、掲示物を作成したりして特別支援学校との間接交流を2回実施した。	A	・年間を通して朝の時間に「なかよしタイム」を11回、「ほのぼのタイム」を3回行った。また、特別支援学校との間接交流を2回行った。活動の振り返りや交流の相手に対する手紙には、いつも心温まるメッセージ等が書き込まれており、思いやりのある気持ちや相手を敬う気持ちが育まれてきているといえる。 ・2月のアンケートで「友だちと仲よくできていますか」という問いに対し、96%の児童が「できている」、「だいたいできている」と回答した。	A	・元気に挨拶をしたり、気軽に話しかけてきたりするなど、心優しい子どもたちが多い。	志方(特別支援) 石井(道徳推進教師)	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの未然防止、早期発見・早期解決に努める。 ○「学校が楽しい」と答える児童が90%以上になるようにする。	・月1回の「心のお天気」アンケートや6月、10月にとるアンケート調査で、児童の友人関係や悩み等を把握する。 ・配慮を要する児童等について、連絡会で情報交換の機会を設け、職員の共通理解を図るとともにSC、SSWと情報交換を密にし、連携を図りながら支援する。	A	・日常の指導や定期的に行うアンケートを通していじめの未然防止、早期発見・早期解決に努めている。昨年度から未解決であったいじめは全て解消した。また、今年度は3件のいじめを発見したが組織的に対応して解消できるように努めている。 ・アンケートで学校は「楽しい」、「まあまあ楽しい」と95%の児童が回答した。 ・アンケートで学校生活が「楽しい」、「まあまあ楽しい」と児童が答えていると96%の保護者が回答した。 ・「いじめゼロ」を目指して今後も取り組んでいく必要がある。	A	・日常観察や定期的に行うアンケートを通していじめの未然防止、早期発見に努めてきた。年間を通して6件のいじめを認知した。全職員で共有し対応した。 ・2月のアンケートで学校は「楽しい」、「まあまあ楽しい」と95%の児童が回答した。 ・2月のアンケートで学校生活が「楽しい」、「まあまあ楽しい」と児童が答えていると96%の保護者が回答した。 ・「いじめゼロ」を目指して今後も取り組んでいく必要がある。	A	・友だち間でのいじめは聞いたことがないし、見たこともない。 ・子どもたちの地域で過ごす姿や登・下校中の様子、学校で行われているクラブ活動の様子を見ていると、学年関係なくみんなとても仲よくできていると思う。	小柳(生活指導) 徳永(教育相談)	
	○元気なあいさつや温かいことばで交流する児童の育成	○「あいさつができてい」と言える児童の割合や地域、保護者の割合も90%以上にする。 ○「言葉づかいに気をつけている」と言える児童の割合や地域、保護者の割合を90%以上にする。	・場に応じた言葉遣いやあいさつができるように、全職員で日常的に指導する。 ・学級指導や道徳などで、児童の実態に合わせて取り扱い、意識の向上を図る。	B	・アンケートであいさつが「できている」、「だいたいできている」と95%の児童が回答した。地域の方からは100%、保護者からは82%の回答を得た。 ・アンケートで場に応じた言葉づかいが「できている」、「だいたいできている」と90%の児童が回答した。地域の方からは100%、保護者からは83%の回答を得た。	B	・2月のアンケートであいさつが「できている」、「だいたいできている」と93%の児童が回答した。地域の方からは100%、保護者からは85%の回答を得た。 ・2月のアンケートで場に応じた言葉づかいが「できている」、「だいたいできている」と91%の児童が回答した。地域の方からは100%、保護者からは89%の回答を得た。	A	・地域で出会ったときや、登下校中は元気に挨拶をしてくれる。 ・言葉遣いもよいと思う。	小柳(生活指導) 小松(生活指導)	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○朝食喫食率93%以上を目指す。	・食育月間中、4年生以上を対象にチェック表を活用し、保護者と連携して取り組む。 ・栄養教諭と連携して、低中学年を対象に食育の授業を実施する。 ・保健だよりや健康診断結果等を配付しながら望ましい生活習慣の形成に必要な事項を各家庭に提供し、年間を通して心身の健康づくりを呼びかける。	A	・アンケートで朝食を「食べている」、「だいたい食べている」と96%の児童が回答した。 ・栄養教諭と連携し、1年生から4年生を対象とした食育の授業を実施し、食を摂ることの意義やバランスのとれた食生活の大切さを学ばせた。 ・保健だよりや健康診断結果等を定期的に配付し、心身の健康づくりを呼びかけている。	A	・2月のアンケートで朝食を「食べている」、「だいたい食べている」と97%の児童が回答した。 ・保健だよりや健康診断結果等を配付しながら望ましい生活習慣の形成に必要な事項を各家庭に提供し、年間を通して心身の健康づくりを呼びかけた。	A	・核家族が増加している今、朝食を一人で食べている子どもが多いことを願う。	徳永(保健)	
	○体を動かすことを好む児童の育成	○アンケートで「外で遊んだり、運動したりするのが好き」と答える児童90%以上を目指す。	・なかよしタイム(縦割り活動)や水泳クラブ、持久走月間、縄跳び等の取組を通して運動に親しませながら、体力の向上を図る。	A	・なかよしタイムや持久走月間等を仕組み、健康な体づくりを呼びかけている。 ・アンケートで外で遊んだり、運動したりするのが「好き」、「まあまあ好き」と91%の児童が回答した。	A	・コロナ禍で実施できなかった体育的行事もあったが、年間を通して保健体育部を中心に児童の体力づくりに努めることができた。 ・2月のアンケートで外で遊んだり、運動したりするのが「好き」、「まあまあ好き」と90%の児童が回答した。	A	・運動場で遊んでいる子どもを見ると嬉しく思う。コロナ禍ではあるが、元気に過ごしてほしい。	喜多(体育) 久保(体育)	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日を定時退勤日とし、早めの退勤を呼びかける。 ・平日は、19時をめやすとし、また、月45時間以上の超過勤務がないように呼びかける。	B	・アンケートで業務の効率化を意識し、また時間外勤務の削減を目指し取り組むことが「できている」、「だいたいできている」と73%の職員が回答した。 ・これからも超過勤務の削減に努めていくように心がけていく必要がある。	B	・2月のアンケートで業務の効率化を意識し、また時間外勤務の削減を目指し取り組むことが「できている」、「だいたいできている」と67%の職員が回答した。中間評価よりも低くっており、これからも業務の在り方を見つめ直し、改善を図っていく必要がある。	B	・平日は遅くまで残業をしないで、また土・日はゆっくり休んで職員の心身の健康を維持しながらよりよい教育を目指してほしい。	松尾(教頭)	
	○会議や事務の効率化	○会議の超過時間0を目指す。 ○誰もが手軽に必要な文書や授業の教材等を、校務サーバーから取り出せると感じられるように整理する。	・資料の事前配付と、資料を読んでからの参加を徹底したり、会議の開始、終了時刻を厳守したりする。 ・校務分掌や教材研究等に対する時間削減のために、文書や授業の教材等を校務サーバーに保存し、有効活用する。	A	・職員会議は、提案する時間配分や終了時刻の設定により、超過時間をほぼ実現することができている。 ・校務サーバーに保存した文書や教材等の有効活用で事務の効率化ができていく。	A	・職員会議は、提案する時間配分や終了時刻の設定により、超過時間0をほぼ実現することができた。 ・校務サーバーに保存した文書や教材等の有効活用で事務の効率化ができた。	A	・会議等は、勤務時間内に効率よく進めてほしい。	松尾(教頭) 岩本(教務) 各担任	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価			学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
◎志を高める教育	◎地域の「人・もの・こと」とふれあい、そのよさを感じ、地域を大事にする心を育む教育活動	◎地域の「人・もの・こと」に愛着を持ち、大切にしていきたいと感じる児童を90%以上にする。	・田んぼの学校やサマースクール、登下校中の見守り隊の方とのふれあいを通して、そのよさに気づかせ、感謝の気持ちを育む。	A	・サマースクールは中止となったが、その他の行事等は十分な配慮をして実施し、地域との交流を深めた。 ・地域を大切にしていきたいと思う、「まあまあ思う」と97%の児童が回答した。	A	・2月のアンケートで地域を大切にしていきたいと思う、「まあまあ思う」と97%の児童が回答した。学校の実態に応じて実施した「ふるさと学習」や見守り隊とのふれあいを通して、地域への愛着心が育まれているといえる。	A	・登下校時の見守り隊の活動や「田んぼの学校」、「お話小箱」等での関わりは、子どもたちが大人になってから引き継いでくれることと期待している。このような活動が続いていくことで地域を愛する心が育まれていくと思う。	岩本(教務) 松尾(教頭)	
○特別支援教育の充実	○特別な配慮を要する児童に対する個別の支援計画に基づいた支援	○職員会議や職員研修等で、特別な配慮を要する児童について共通理解を踏るとともに、専門家の話を通して理解を深める。	・特別な配慮を要する児童をリストアップし、丁寧な見取りを行う。 ・夏季休業中に専門家を招聘しての研修を行い、個別の支援計画について見直しを行う。	A	・アンケートで児童理解に努め、必要に応じて関係機関と連携しながら個に応じた指導を「行っている」、「だいたい行っている」と100%の職員が回答した。 ・これからも児童の様子を観察しながら必要に応じて関係機関と連携していく必要がある。	A	・2月のアンケートで、児童理解に努め、必要に応じて関係機関と連携しながら個に応じた指導を「行っている」、「だいたい行っている」と100%の職員が回答した。 ・日頃から児童の様子をよく観察し、必要に応じて関係機関と連携し、取り組むことができた。	A	・細かいところまで目を行き届かせながら指導をされていると思う。	志方(特別支援) 小松(特別支援)	
○危機管理の強化	○通学路の安全点検及び安全指導 ○情報モラルの指導	○交通事故0を目指す。 ○情報モラルについて、インターネット上の危険やSNSの適切な使い方を十分に理解できている児童を95%以上にする。	・地域の見守り隊との連携を図りながら、通学路の安全点検及び安全指導を実施する。また、集団下校時の話で、登下校のあり方について随時指導をしていく。 ・アンケートを実施し、児童のインターネット機器や環境についての実態を把握する。その結果を基に指導内容の精選を行い、学期に1回以上指導を実施する。	A	・地域の見守り隊の協力も得ながら交通ルールを守って安全に登下校ができていく。 ・アンケートでSNSのマナーを「守っている」、「だいたい守っている」と児童全員が回答した。	A	・地域の見守り隊の協力を得ながら、年間を通して交通ルールを守って安全に登下校ができた。 ・2月のアンケートで、SNSのマナーを「守っている」、「だいたい守っている」と98%の児童が回答した。中間評価では、100%だったが若干低くなったことからみて、これからも継続した指導が必要だと思われる。	A	・登下校中の見守り隊の協力はとても大きいと思う。	松尾(教頭) 小柳(生活指導)	

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・学校・家庭・地域が連携して児童の教育に携わることができた。職員・保護者・児童・地域対象の教育に関するアンケート調査においても、それぞれに高い評価を得ることができた。 ・学力向上に向けた指導法の改善を図る必要がある。とくに3年生は、CRT調査で全国の平均値を上回ることができなかった。また、4年生は県の学習状況調査で県平均値を上回ることができなかった。児童の実態を分析し、課題を明らかにした上で指導法の改善を図っていく必要がある。 ・これまで同様にいじめの未然防止、早期発見、早期解決に努め、いじめのない学校づくりを目指す。 ・働き方改革の視点から、職員一人一人に超過勤務を削減する必要性の意識付けはできてきたが、その実現に向けた具体的な取り組み方の工夫を考える必要がある。
----------------	--